

今さら聞けない資機材の使い方

〔第15回〕メインストレッチャー

梅村 廣太

(留萌消防組合消防署)

「今さら聞けない資機材の使い方」第15回を担当させて頂きます、留萌消防組合消防署の梅村廣太と申します。よろしくお願いたします。

高さ	最高	96 cm	高さ (椅子型時)	30 cm
	最低	25 cm		150 cm
重量		29 kg	重量	16 kg
最大荷重		159 kg	最大荷重	159 kg

1 はじめに

さて、今回取り上げる資機材は、救急現場では必ず使用する「メインストレッチャー」についてです。皆さんも所属で一度は見て、触れている資機材だと思います。また、取り扱いを誤れば、自分のみならず、傷病者にも怪我をさせる危険のある資機材であることも既にご存じのことと思います。この機会を通して改めて使用方法等を（私も含めて）復習する場になればと思っております。

2 メインストレッチャーの構造と操作

各消防署で使用しているストレッチャーの種類は異なると思いますが、今回は、留萌消防署で使用しているFERN O社製（写真1）のものを使用して説明します。各部の名称は表（表1）のとおりです。

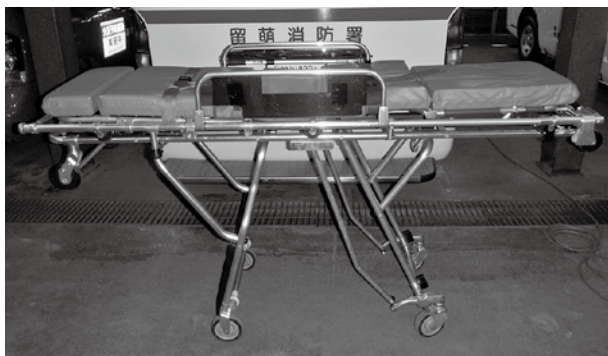


写真1 FERN O社製エクステンジストレッチャー
モデル4080-S / 4155

表1 仕様と各部の名称

トランスポーター		ストレッチャー	
高さ	197 cm	長さ	199 cm
幅	56 cm	幅	58 cm

図1 トランスポーターの名称

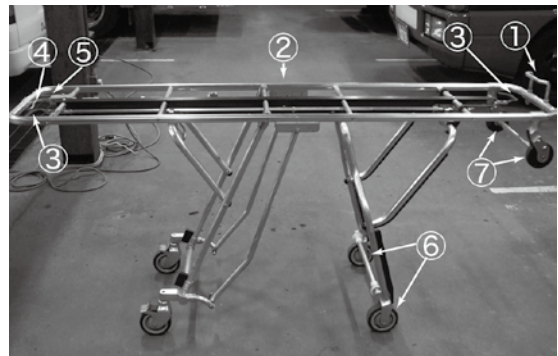
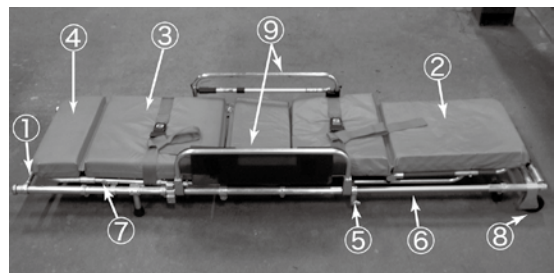


図2 ストレッチャーの名称



トランスポーター（図1）		ストレッチャー（図2）	
①	ロックバー	①	ヘッドエンドクロスチューブ
②	メインフレーム	②	フットレスト
③	リリースハンドル	③	バックレスト
④	ロックノブ	④	頭部パネル
⑤	ロックリリースレバー	⑤	ポジションロックバー
⑥	ホイール	⑥	メインフレーム
⑦	ローディングホイール	⑦	ロックレバー
		⑧	ホイール
		⑨	サイドアーム

トランスポーターとストレッチャーをセットして使用します（以下、組み合わせたものもストレッチャーと表記します）。トランスポーターには6段階の高さ調節機能が付いています。メインフレームについているリリースハンドル（写真2）を握るとロックが解除され、高さの調節が可能になります。この時、手が滑るなどしてストレッチャーが落下するのを防ぐため、持ち手は必ず逆手でいきます（写真3）。



写真2 リリースハンドル



写真3 持ち手は必ず逆手でいきます



写真4 ロックリリースレバー

セパレート式の為、ストレッチャーのみでの搬送も可能です。トランスポーターのロックリリースレバー（写真4）を左に押すとロックが解除され、ストレッチャーが動くようになります。

ストレッチャーを椅子型（チェアポジション）にすれば、小回りが利くため、エレベーターやマンションの廊下など狭隘な場所でも搬送が可能です。また、布担架等に比べ傷病者の動揺を軽減することができるだけでなく、ホイールが付いているので車いすのように押して搬送でき、隊員の体力の消耗も抑えることができます（写真5）（写真6）。



写真5 椅子型（チェアポジション）



写真6 狭隘な場所でも搬送が可能

トランスポーターとストレッチャーを組み合わせるときは、ストレッチャーのエンドクロスチューブがロックバーに接触するまでしっかりと押し込みます。その後、ロックノブを時計回りに回して押し込みます。確実にロックされていることを確認してください。ロックが不完全ですと、傷病者に動揺を与えるだけでなく、ストレッチャーのみが動

き、重大な事故につながるおそれがあります。

傷病者の容体に応じて体位管理も可能です。フラットレストは3段階、バックレストは5段階の調節が出来ます。ショック体位が必要な傷病者で足部を上げる場合は、ポジションロックレバーを180度回しロックを解除し(写真7)、フラットレストを上げていきます(写真8)。設定後は必ずロックを戻し、必要な体位を保持・管理します。



写真7 ポジションロックレバーを180度回転しロックを解除すると



写真8 フラットレストを上げることができます

呼吸器疾患や循環器疾患など、座位の状態が楽な傷病者の場合は、ストレッチャー頭部側にあるロックレバーを持ち上げ(写真9)、バックレストを上げていきます(写真10)。ラチェット式なので、ロックが解除された後はバックレストを上げるだけで角度調整が可能です。バックレス

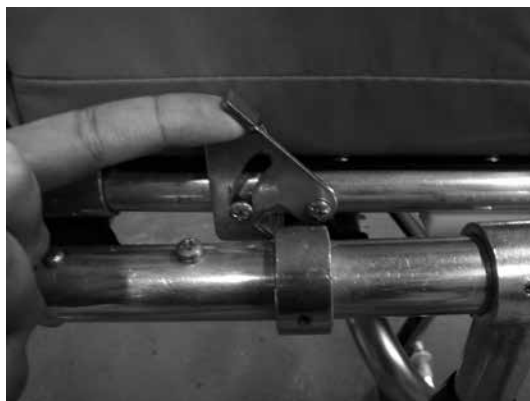


写真9 ストレッチャー頭側のロックレバーを持ち上げると



写真10 座位にすることができます

トを下げる場合は、フレームを少し持ち上げ、必ずロック部の負荷を取り除いてから操作します。当たり前のことですが、上下させるときは傷病者への声かけをしっかりと行います。

傷病者をストレッチャーに収容した後は、サイドアームを上げホイールロックを解除して搬送します。この時、救急車までの距離が長い場合はストレッチャーの高さは一番高い位置にせず、中段程度に設定し搬送します(写真11)。一番高い位置にしますと、傷病者を乗せている分少しの段差を越える際の揺れや振動が大きくなり、傷病者にも不安を与えるだけでなく、ストレッチャー自体の安定性が悪く



写真11 搬送時は高さを中段程度に設定します



写真12 救急車に乗せる直前に一番高い位置に上げます